

70

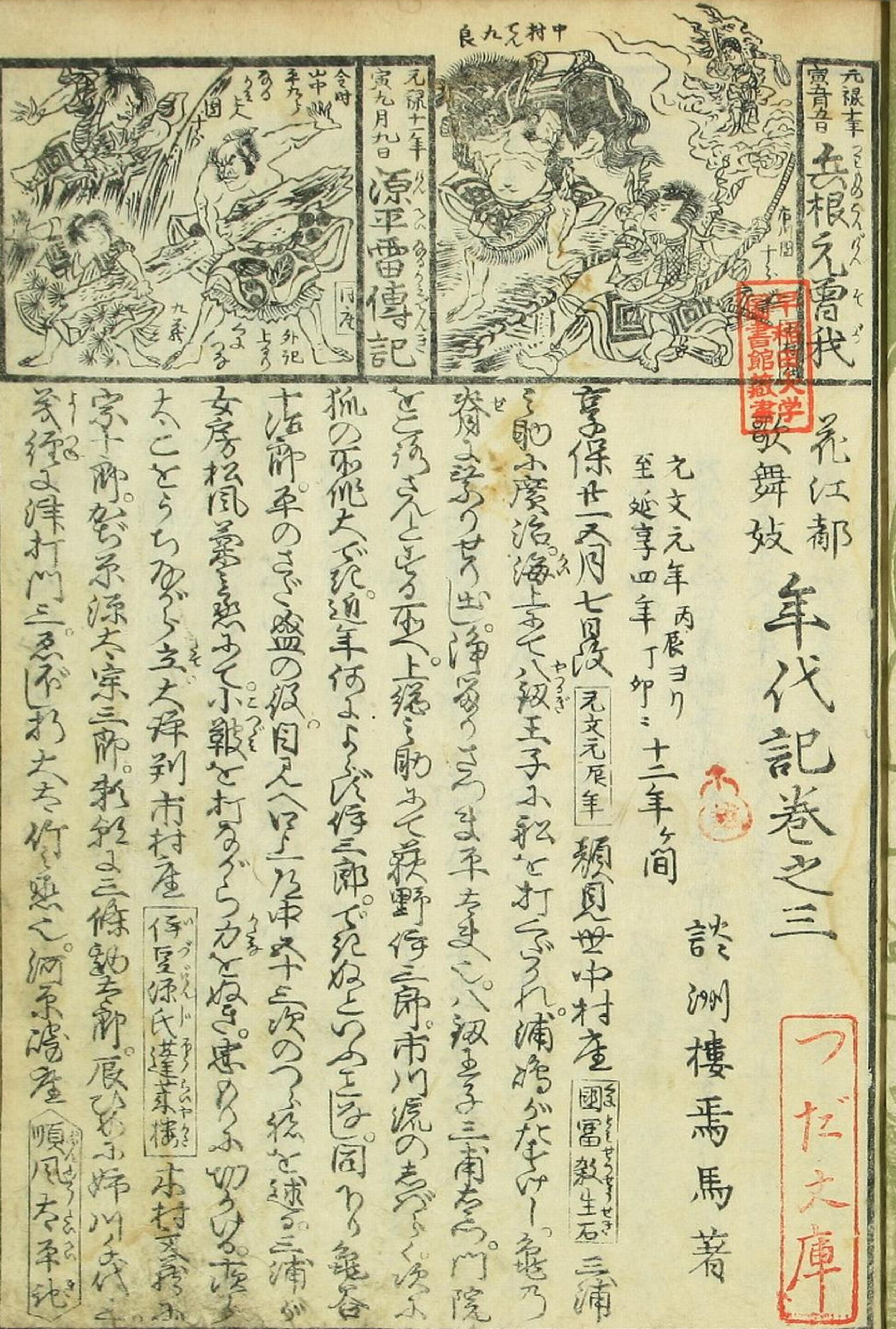
65

60

55

50







浦素彦志の家付駕もあらず。背のせりふと、歸のよ固四席分かどと並ます。

日向のをとと西返し。彼はの三席権と又へ渡し。二役加六席左裏。栗木左三席。又は國の長孫信郎ふ松本春太郎。三つあ合の私太洋別。美濃よ七三丹前勾当内侍袖破。美濃太義人不也。村上主四席。三代目今國十席。内侍のあうどすの向地と主不殺を不承らる。其侍太端。

傳曰。二代目大谷廣治。享保廿九年。洋列記。

立役之部

上 大谷文彦 市村座トアリ

是初舞臺。人形辰松武太郎子守。小笠辰松文七。夫々かみ役もと成て。大谷文彦。元文辰年。市村竹魚守もと成て。坂東又吉郎とひふ。元祖中村助之席へ。享保廿九年。洋列記。立役之部

上 坂東助之席 河原清舟トアリ

乃外方仙石彦助子。仙石彦守郎。元文元辰年。中村助之席ト中里。元文三年二替。又立役。入上上仙石助之郎。河原清舟とひふ。元文二年。中村十三席分子と成。中村と一年

各のう。又仙石とひふ。立役。近位下りて上上の役者。たゞ丸拘を改め。仙石守とひふ。中村助之郎とひふ。年坂東又吉郎へ。上上品の位あり。十年主がとう。江戸役者のまれの。魚乐十町とひふ。

安永五年春牛村座 曙舞鶴と



絵入の廣治。同役。天元天の四席。鬼王ふ吉と志。三席。奇ハ。深川葉と魚をせんわうひ。江戸支淨角。同二席。百道紋。抱取。どぶの千席。鬼屋千席。けの坂のせりふ。嵐小作。毛誠のかねふ。美佐。大の席。鬼屋千席。けの坂のせりふ。嵐小作。毛誠のかねふ。御前角力雅とひふ。春牛左衛門とひふ。又席付家春十席。京の次席。幸雲年。十席。又七席。大旗のさら袖。又家春。股野八席。小浦を移。九月。又七席。けの坂。宝車。小栗到友。七席。三席。三席。又四席。深川の後役。笠間。八席。又家春の娘。又家春。化の左近。園十席。深川の後役。左の香。又。又の後。左の香。酒老。又。大洋列。市村竹春。狂言。今音伴。又。又。左の家三席。十席。竹と。又。席三條缺太席。



あまへくのせうぬ

卷二十一

物語り聞き

曾我

南村莊

元祖
源村常十食

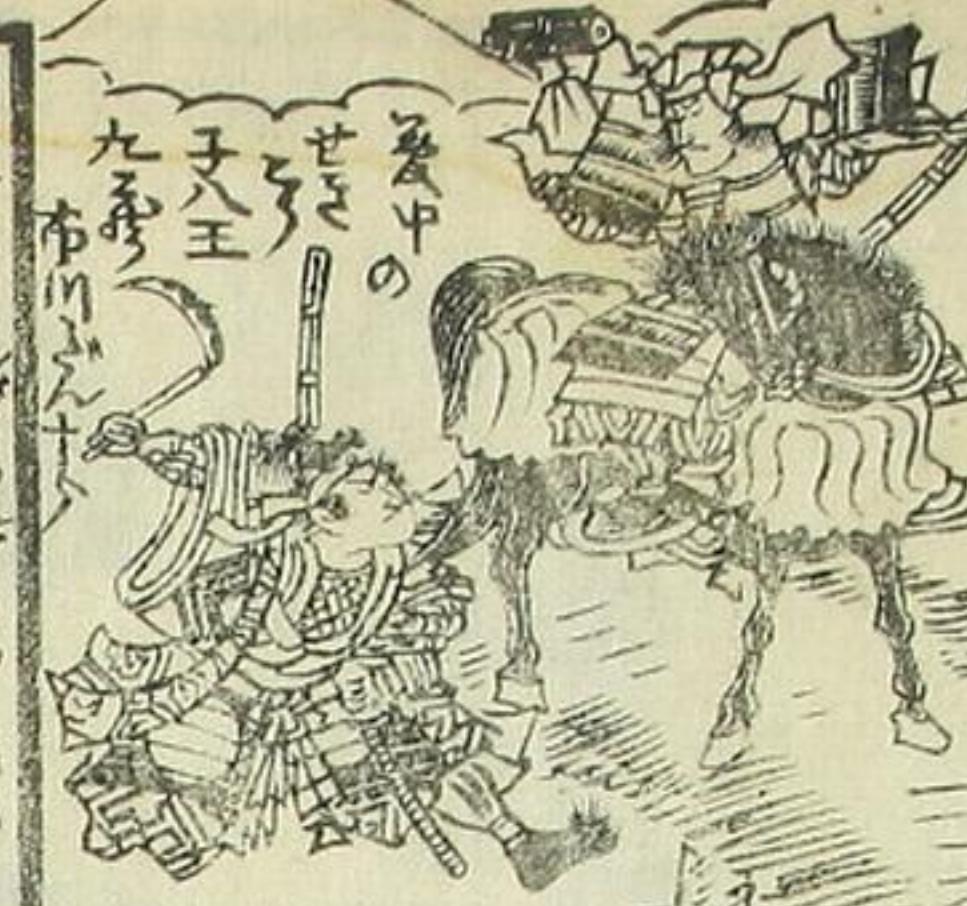
元祖



云々。か江戸本ま、膳。淨。あく。品定。向。頃。錦。家十。布。婦。川。衣。
三。正。経。同。う。ん。だ。の。助。た。郎。ふ。家。二。男。主。ね。の。助。左。よ。家。平。郎。
鶴。つ。の。せ。り。と。え。す。を。あ。あ。け。び。の。も。ま。す。み。え。二。ぐ。な。や。今。し。郎。ふ。
竹。ゑ。悪。せ。の。び。の。助。さ。勘。太。郎。西。人。そ。が。兄。弟。の。肉。う。づ。み。う。ふ。
富。源。内。大。郎。か。く。す。れ。江。戸。本。ま。双。筆。連。墨。と。あ。て。猪。板。友。瑞。翠。
の。都。こ。の。き。手。う。が。ぐ。ん。秋。す。で。大。入。大。出。り。ふ。
鶴。の。勧。寫。高。は。く。せ。ふ。
沢。村。家。十。布。

沢村家十角

元禄十二年
巳酉年正月
碩城王昭君



元禄十二年
巳酉年正月
日本祇園精舍用

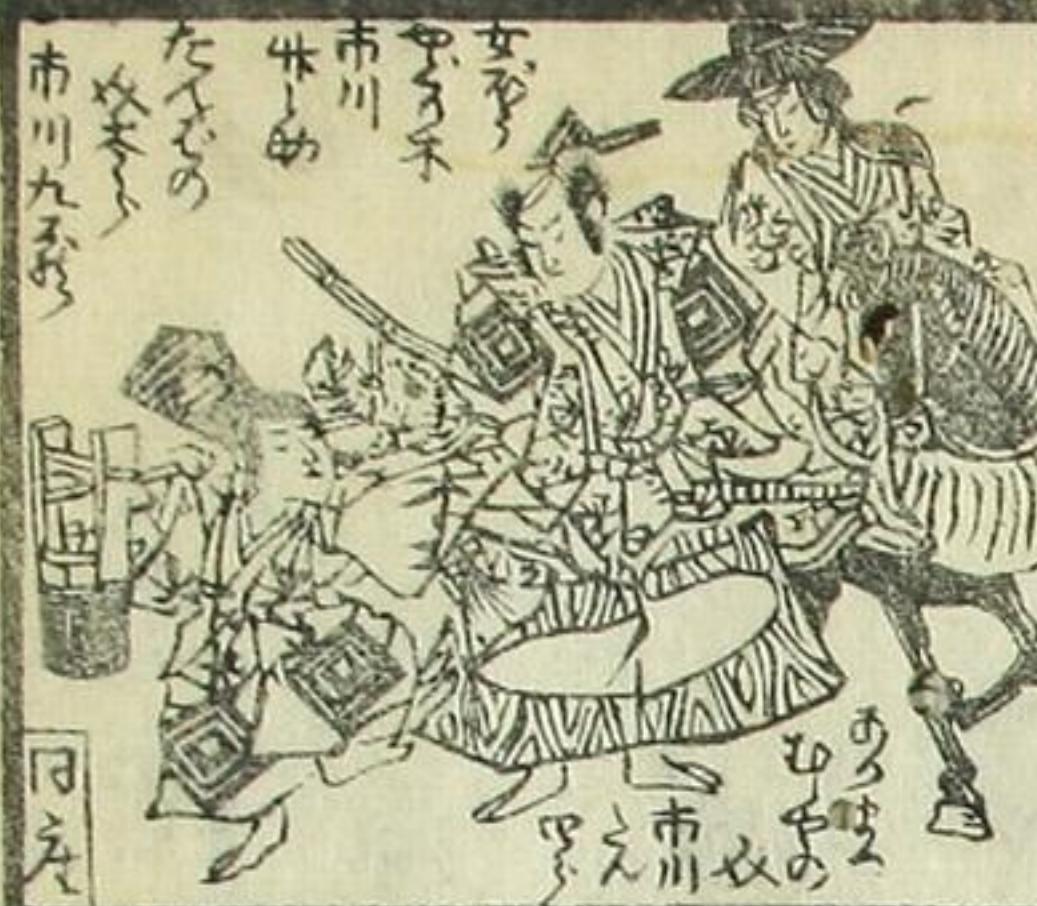
山中之
支王
市川九兵衛
九兵衛

説べやとて。兄弟がわざをもかまふ。たゞひとほくとひづりあひづり
どゆのゆうじや。さうと青玉つひてあざとひす。あゆうひだ。え我が
たのひと私後つひとあづみをもとす。ゆきまちや。そらや大原ひとじとく
あ。からやゆきまちのせどひ。ゆきまちと潤ひませで。兄弟の小音をかげ。からを
くのゆうじや。おとまゆるてひづりや。我むすぶ間。かくすまよ
ひとす。ばかとあひだとまよ。あもてひがせうめん。娘子のそん
おとまゆるけの勤をもと。ごのせんをゆ。おとまゆるゆ。おとまゆ
かくじとえぬ。お兄のまのせん。さとむかづか。があのやつをとくらむ。
あんやお肉みに。せはりとのひふ。おびるひともあがむ。おもむきの
ためん。思をもつまめとせ。あえ方とたとくまめとせ。あ人
とみ文ふおとくとめこうがの二。ぬけ侍。町へりがくわくすまもと
様がく。せきて飲むのれふ。小袖ごひのまよ。一ノ年もとめすまと
思がゆのかゑうちのゆふ。とくがうりや。あめんせむ。

内年
貞吉當世酒呑童子



内年
同年
葛城吳越戦



内年
同年
市川九兵衛

戊年霜月市村行三とまをまつて没。市村代一代奴代男一代女
狂言ふ。太谷廣治漱川景三與龜谷十次郎勤む。九月とうと毫毛三
次。唐后。十次郎。京田條の妻居(妻)。名残御去。
あうし。爰より五年ひぎよ。まひう官ち居豊後楊下。吹合町の
おま居。淨あうふゆのせ。小竹狂まひ。けは村常。龜。岡田龜。う
事やほへかな柳やまくの和能大詳判。龜。江布。後。龜。十布。す。次村
家十布。才子。す。次村。辛布。是。其代文字。本多下。同。霜月
頼。せ。酒。篠。丹。閏月仁景清。みせの。の。四布。三番。を。せ。ゆ。の。ま
治。布。す。市。川。五。び。參。仰。せ。章。清。五。び。參。仰。せ。キ。太。國。美。櫻。余
辛。秀。市。川。金。四。布。人。也。ひ。あ。中。村。吉。秀。あ。と。手。袖。櫻。余。大。布。
治。布。余。十。布。を。ひ。山。を。保。よ。七。布。そ。移。父。順。礼。西。國。順。礼。浦。若。余
國。移。父。人。牛。合。大。离。り。さ。け。那。春。ナ。モ。持。と。元。文。三。年。ま。河。余
彌。を。ま。年。の。ね。ま。せ。り。ら。ひ。初。緑。豊。年。調。ま。々。の。ニ。と。自。褪。と。



卷之三

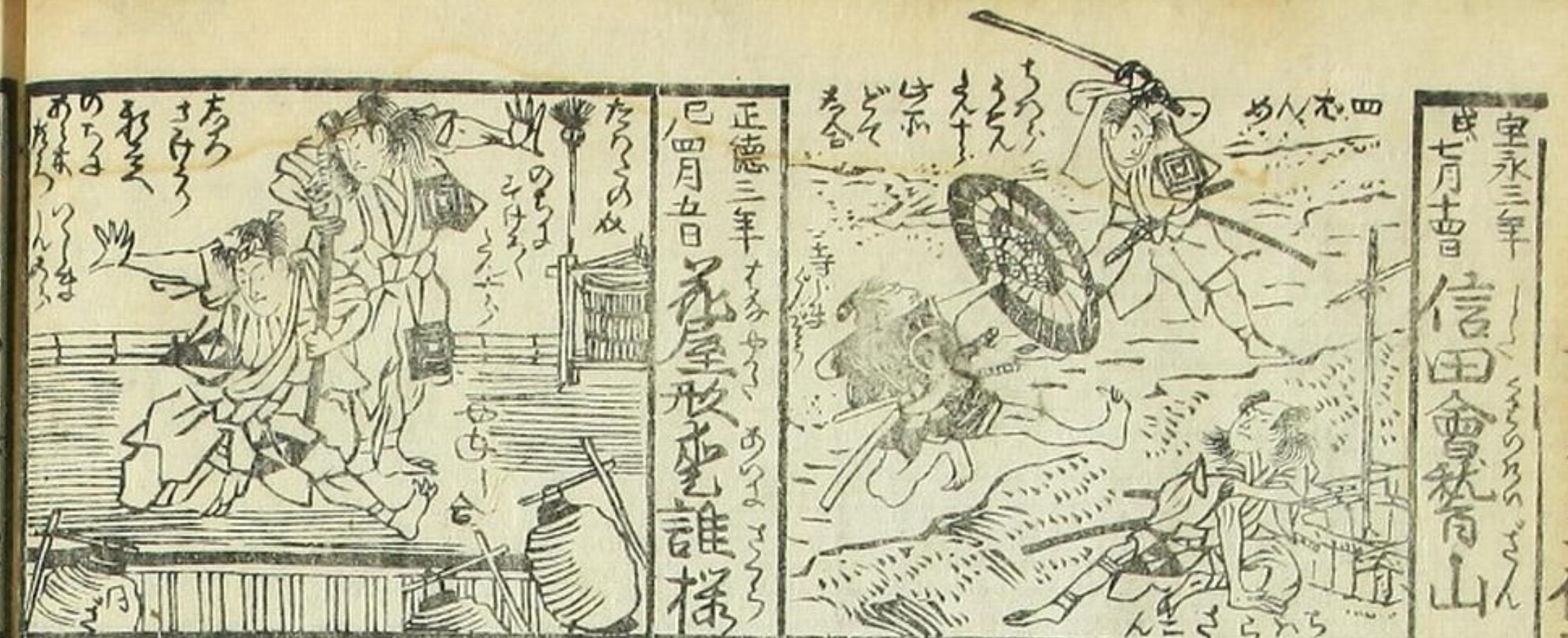
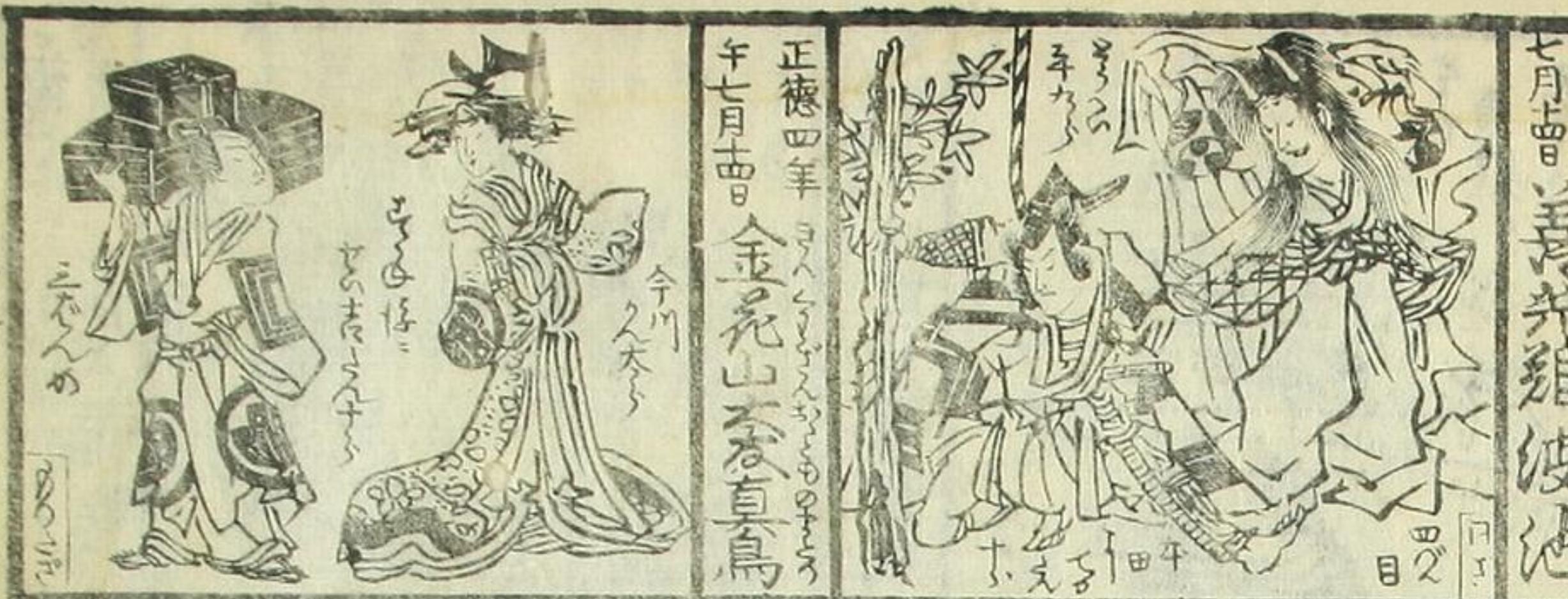
卷之三

卷之二

あがめとあくま。お手人丸ふかげ座がゆづやせを。雪せもの。まよ
あ者あまの御の形ある。まよあて妻あまう。森ねふうきとほ
をひき。其まがやめよきと入たひゆふ琴とあびきを。あゆみの三味
せんとひき音きよ耳をそびと。呉幽奉氣のたよとひと。本委
あくみひつり。ひうち津のひげよう。奈落をくつり坐と。梶玉すくわ
まの下人七手をとひのとて。山陽とくのとて。本大译判。一びん用乃
大詰よ浦老義閑羽園。並強弱。是又去冬よりの大詰り。前春
中解

似せ玉をあらへて御心もつゝ人をあひ度と也。かくも
うそて鬼王がたの事なる。實に。一役者たる故に。十日か八日太
而。終終おどものあせまつて。既に。さうして。又かく侍立
政とも。わせりとおひか。庸たゞ。ゆゑて。私中の碇。一
大拜別。七里がたまへ。乃は。往け。此時庸を。うそじよ利。も。す。
角。大師の形のねじみの出で。見る中。流の氣ひなむ。一もく首

効十郎祐ありて女護ゆ。女ふとて鬼が浦の十郎姫こと
ひづるのあわ。とてまくらとぬまの忍者大だに中村を役者不入
りしが蟹を隠打治き事。やれ我おおせを本組。女護ゆのおりし才。ア
御ねえの姫のなりど。アと物よも。三月より侍三郎え服のス席。
奉京あへ西屋も七日を繕ふ写んス席。お七日を繕ふ侍三郎
長上下の出。是ナヤホ替わりしが。元彼様つゝのせり。大だれ。お邊
音ハギリシ節。姉川お代三のわみ三茶葉のちくと女護の筋。枕元
女と二役づき。も大だれと。古老のめ座よ侍。市村見(有卦祭) 万萬
立よ坂東差三郎。十郎家十郎。へ布ミテ左の鬼王き十郎。ごう三
津お門。からふ御方海扇。せうふ扇小侍三。軽ひる木長九郎。役者
捕手不入りしが。秋ねえ(款付嚴流) 月本武者主助丸三。土佐
近席ふ家十郎。佐木ホガヤシ四郎。十八門。十郎。六女房をと。佐
富戸門を十郎。子童のまふ罕川。筋筋。千まのまふ嵐小侍三。小太郎よ
嵐三。関口平馬市川効十郎。奴族平大名龍をも。ほも大ニ歎く。



卷之三

卷之三

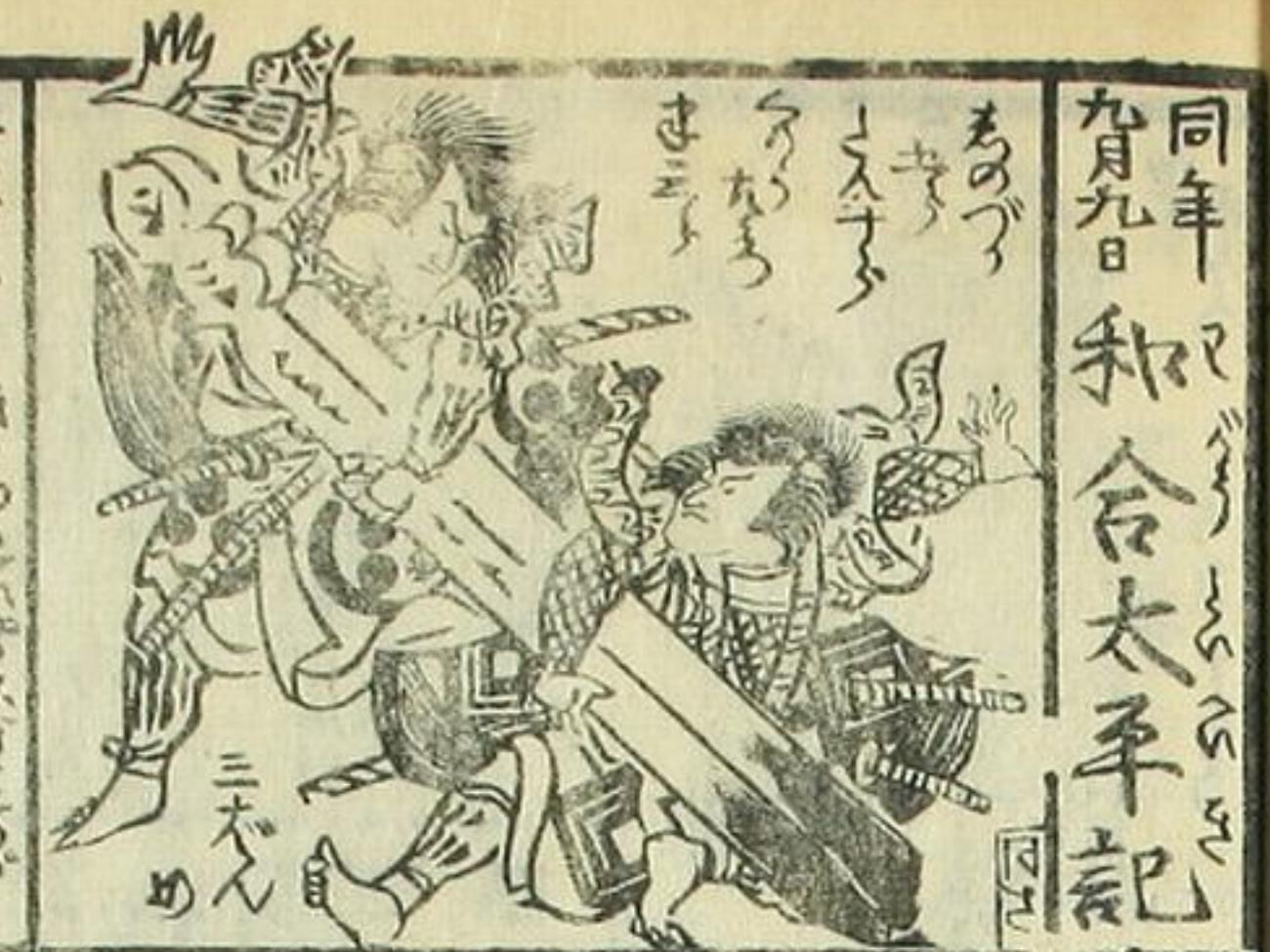
卷之三

九

武者
一
ミハゲルアシナリ。ル
カバハラルジム
グム
一
ハクヒキトモト上
キヨカウ

今だよかがござひのよそもひやかはすまうと存ふが。序
ぜんのちをすがちをまくまくすがれど。茶道のらへるがれどを
きて。筋がやうなふ。ば名代ふまきなま。殊々今宵は
我者みみくちひまじひ。つゞきも身のせんもひととひづか。
それをまいかつて。ゆく。只今年。やめにじらすまくは
多角でぐる。まくわゆき

一
づくらひゆたす。萬はあやつを守一のがん。アラバウルハサウエー。
別ては苦を勞。さだめてかへた。例年のごとく。対のむきをど。
射のむちうまでくわま
一
ぐん
みる。ぐんアラバウルハサウエー。アラバウルハサウエー。
やも力。対の。がくべ。や。ソラゲルハサウエー。とくもく。ぐん。何



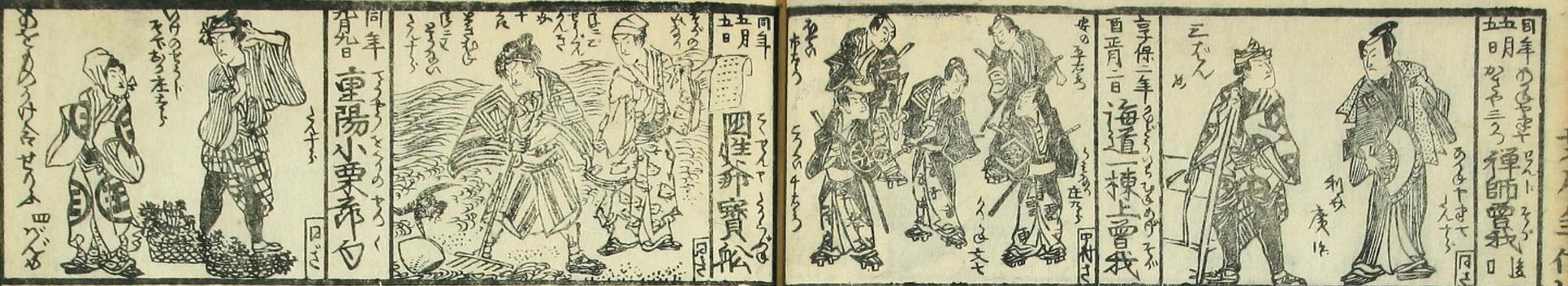
同年
背智
和合太平記



卷之三

卷之三

もく月本武者みみどりのまきざの中ごうもくからもくさんア
み百名みく安ひゆのでぐんノミ
一 グン サム ドム
一 グン サム ドム
一 ウチ子寿のまく太きみのなア。そらとくの小ちうせん



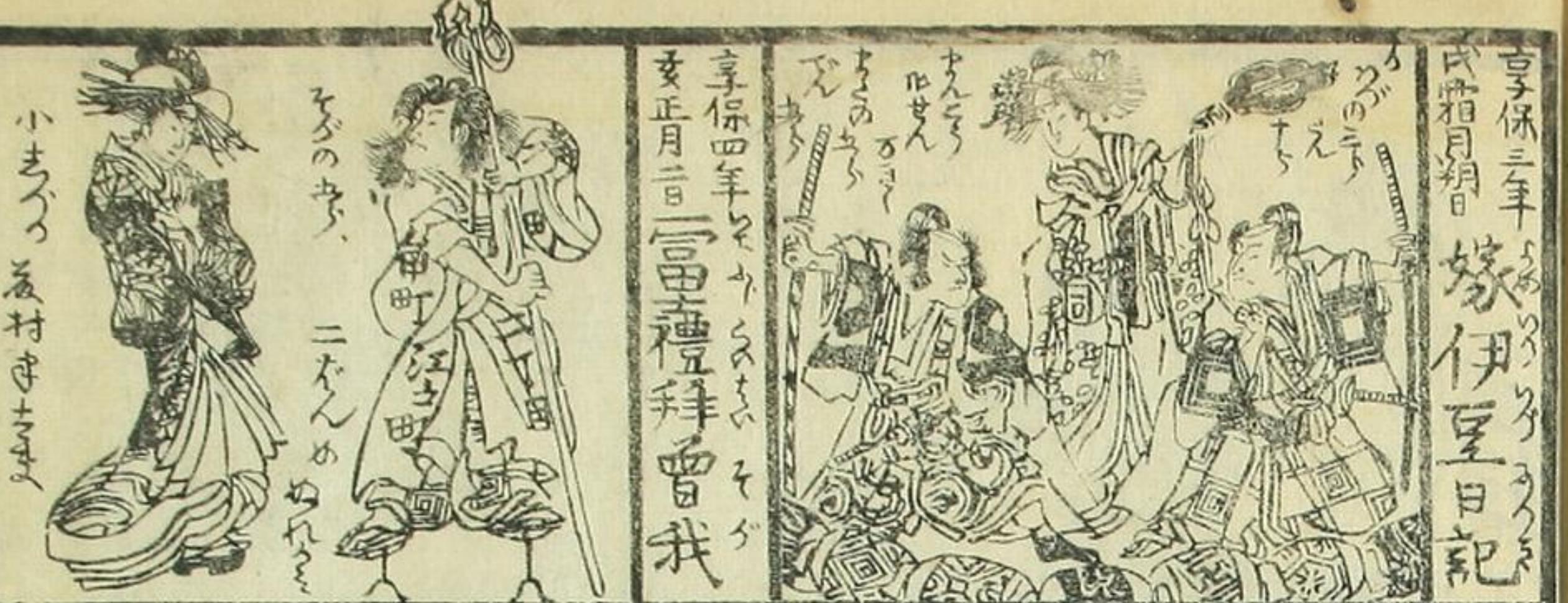
卷之二十一

卷之三

四

一 そぞぞ。へらすまどをりあ。そぞぞアキシル。めらつと
こちくのやうを。トキシゾク小太アヤダス見付
モウハのこゑ見付。トウヒ木見付
一 部
「テ勢まこと。」
みゆふわのちくはたとけゆが。

一
立葉どひあらへよ。かくても、さくやアもひんれ
ながいがえが。よ。よ。よ。よ。よ。
ぐれ。ト。ト。ト。ト。ト。
一
立葉どひふ。ト。ロ。ト。立葉
立葉あるべ



卷之三

卷之三

からひがつたのとひづく。もすがくぞ。それがてのふ。達をあひて
立教下の内。び入へまくれぬ。ト切てうるま者もめてもまきこまう。
あくさん幸四郎があく歯二まい根うちある。夫とえきくだ。ま三席をちくる力もあ
まう。むすりとくつづくとあてや。幸四郎へ。ロヌムニモするや。まくからつひそ
あむとひくらじも。じつもううさ。まとのまみいもかのんと。うづの彦人。よど
のうどひとひをうあてま居もう。うえくわく。ばせたのうにうそと打たうえ
あくさん

一
やまと。をや子の上刻でくわきよ。代えのちも又度ありて
ゆきよなキリ。トヨみて武者もみ。刀とるびどり。仁王。ざらすくわきよ。
くわきどもどり。大小とよく。是より多くめぐらへ。うちよかくま。歯と。はるかの
うまいの歯とづくと。のむくと
一
き者みどり。筋の代えあびよ。勤て今もんのれい。

一矢
一矢。さうの心地をもつて今ぬがともあづかひをもつてく。

あつまやある。ト あとかねがりてゆくとも、武者もあらず。まよひをひいて、生
きとある。 と云ふある。死なうとする事も、がんばらうとする事も

よ里千歩せんぼの太郎たろう
もじんのさくさくあす
らきとらきとさくさく
一ひとマ情じやうの敵のぞとうづき今いま者ものかがうてうてしよくもくうくゆと

一
モトノ

トありえり。至る所ちて御かる三人ともひき立つて
エイ。久安門の戸をうちへよる。武者久安戸とあひて。
もとひき立つて。一あまくあがく。トタタタタタタタタタタ

えりとく。幸田角。生宣へづのまゝ氣絶したまへども死じて御
心をも。直江の教説のやうに思ひます。たゞ吉太郎の事。本

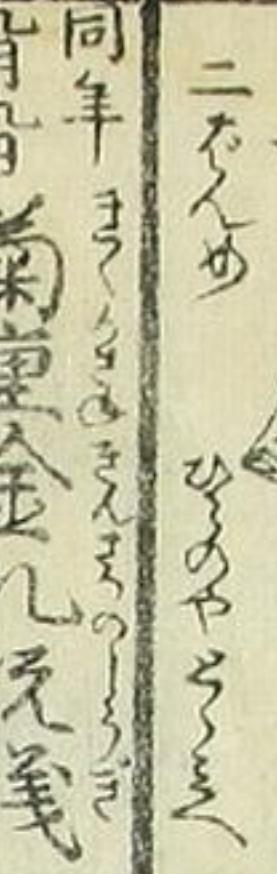
吾友之子坂東彦三郎。彷彿承嚴流入松本音頭而更人充暢之。其

の事も、さういふ所へ登出歸る後、四月廿二日午後二時と申かる。まことに、
食事三百石の役者、其の妻を含め、又三百石の役者妻。一枚乃
歯が百石の役者妻と、安永のころ本場の別荘にて、此處に定められ。

同年壬午九月鄭之世畫

木幡因幡舎語

同年後天まきうらまきうら
四月相日日平のよせ曾我崎心中



享保五年正月二十日
子正月二十日 楠根元曾我

享保六年正月二十日
五正月二十日 大鷹鳥賑曾我

享保六年正月二十日
五正月二十日 大鷹鳥賑曾我

享保六年正月二十日
五正月二十日 大鷹鳥賑曾我



まを。さうが見や。やる。お着たもと見えあうのも
どう。お老おおあつ。比第栗生。條つ。烟直の
四天王の四役。大いやすらんなり。同年もる河原賑曾
我七小町。博士のひさ助。三井金十吉。法どり仙人
三や海老義。大友の馬ぬけ園義。海老のせうく
七三席。おの小町袖さに兼ち二席。空海あじゆと奉
の大せん竹さく二やく園十席。元文四年春
市村社へ初鑿通曾我



伊三席。行ひうふ七三席。名とふ二席をうづみのまつり
食事ひこ乗る。河原賑曾我。うまくの權壽江葉景政
小國義。家とふれふれをも。ばさん太郎ふ三條助太郎。おのの
まふ富次辰三助。ばさん太郎より承玉を權めぐらすうり。市村
彦貢船太平記。まのつゝス麻海者。がくがくと
幸四席。陽明三助家三席。みりひつけ。一文字の額ぐを引
あうさんと見る。ちぢくの出。よーとふせ車左左
る。二ぢん用園十席。村上慶四席みそ。仙せ大膳官と
え。陽明三助家三席。出家とももじとどめをりとぞ。
首をうごきと死百足むきの太刀の切されをほかくしも。
その首とひみのそんどの中へ入いき。後ふ油老お
煙えんあくをうみてもとあらうとき血けのあくアヤセミ
て。ちいどみとをからんと見る不六ひゆうぢん。陽明三
助とくどみとが軍物ぐわざうづみありとせ。びんへあとかげ
えも。

享保乙年九月廿日大電商曾我



紅五足出。河津左近の一人と老母ふに後ふる奈乃
半内の石像。いづるべあす太夫大筒の繪てのをがく大だる。
ユヌ祐つてふを四郎。十郎ふ市村宇をう。鬼王の力といひ
ふ富沢門大郎。お箱根の辺をうふ家三ヶそん坂のせうく
本名入へたひめ酒中前川。亘海は二代目家十郎ふ
あると。中村店

簾金風引玉曾我

家十郎家の次郎の



役友切丸をねどもそがえかへり。みのとの四郎は
七三郎はよくめめられ。あら眼をうけぬき。そのみどり家
とうふ。同様のよのこからあらう。そがく三つで今まわ
きう丸をそめんして。五郎時家伴三郎ふとうらみわ。
あらえのあぐす。二千鶴谷は熱をもふく。わらびう丸を
さーこうさんと見る時。わら盛のまごのその人のやうふ辰岡え
柔破風のままで二つの壁の下の家の家根よう。けよの坂のせう
せう山本京兵身うづふ主のふみ。ひきだせねの上う。傘をほ

年うへ飛びやりうるをあう。えお体ふ肝をけと。うがうふ

三重丸の。船ひるふらふみゆ四郎なり。同河ふさだ

頌情蝦夷都

鶴谷次郎ふ園を。あら盛よ中村吉

彦。櫻木ふ坂東豊三郎。うらあよ大名移をう。ふと有

ふ中村吉さあ。うつむふ三條勘右衛門。市村社

通曾我

大崩りみて。二月よう二十九日市川家三本名鬼王と云

の達左衛門とひよ監人をう。そがとそどもほ豆のゆ

ふ坂田定四郎。後よ坂田養十郎

一。とけのがのうへどとみるゆく。鬼王妹ちりんかくはよか

女房みよと。見のぬふ身を垂す。けのせのちる尾とみ。ひくけ

のあつとゑ津よあひ。人めあればそよてみよは經うあらふ

は。三月うり通すが。才三事助月助六團十郎。ひげのほえふ家三あがま



内年九月廿日九度禪毛達摩

豐年太至記

かど
よみこゑ

なむ
とくじや七手事

南川海老

つゆまもえ
せきふみくわ
ろくもゐる
はぢやうそ
にまくわ

A detailed anatomical illustration of a human torso and head. The head is shown in profile, facing left, with a small tuft of hair at the top. The neck and upper chest area are depicted with fine lines representing muscle tissue. A large, irregular orange shape is overlaid on the lower left side of the torso, covering what would be the heart and upper lung regions. The right arm is partially visible, showing a shoulder and elbow joint.



史記

富江門志序



物語の通画

中三重画

助六 市川団十良

市村座



助六宣教英

又八え

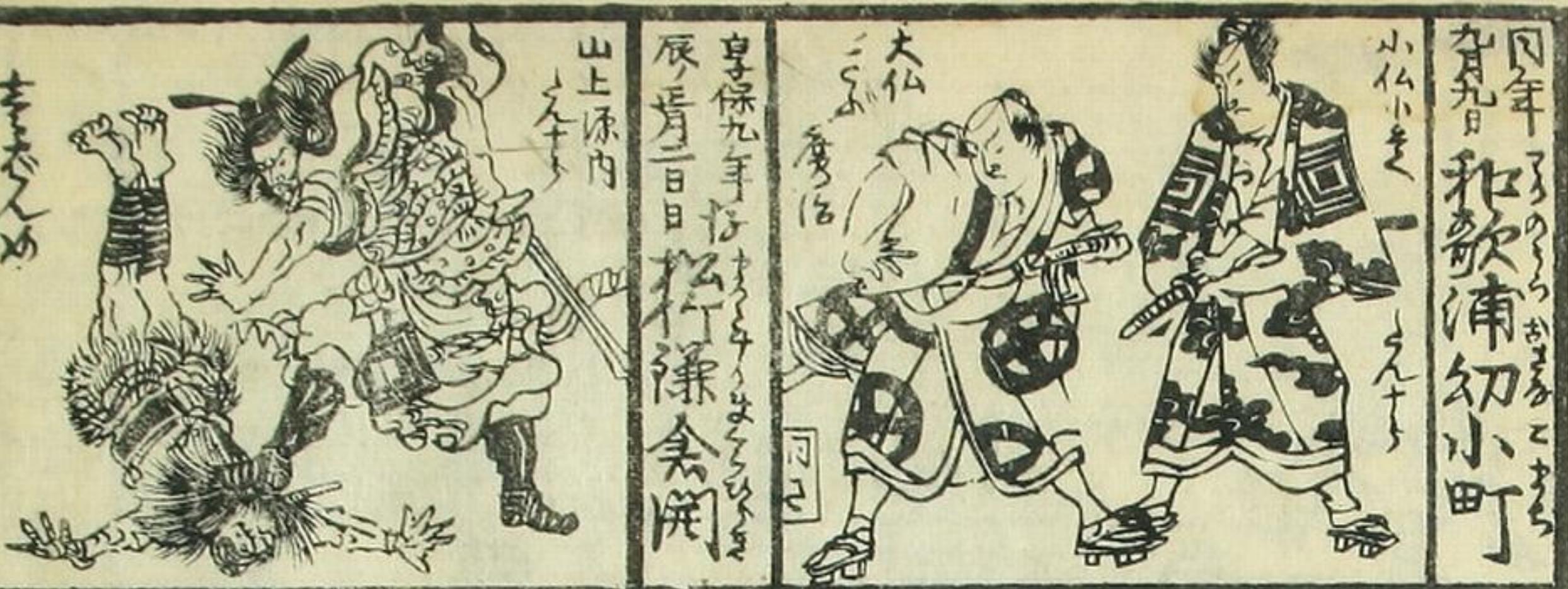
助六みびて

せりふ入

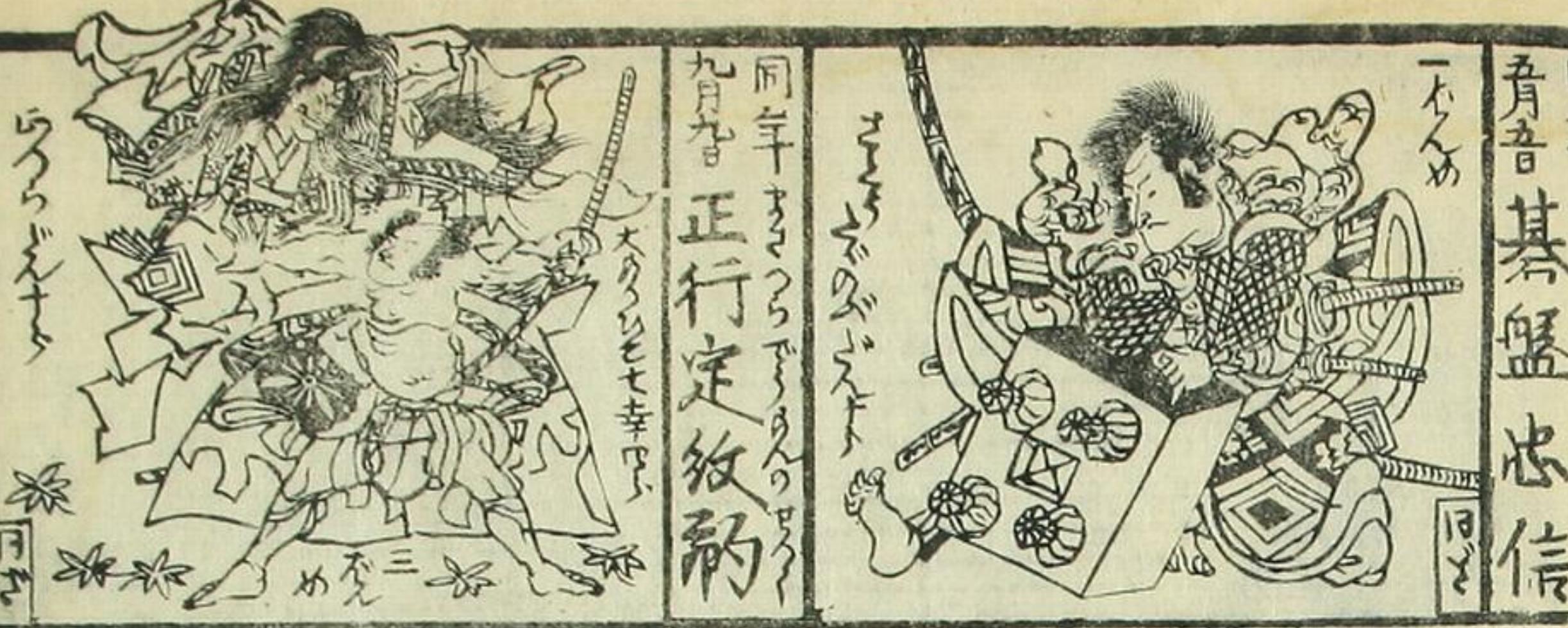
長助六宣教英

松崎庄右衛三重絵

松平兵七



真曉のむじへ。荒川戸とうがたをみて、上ぞひのハ氣ふは戸
町のせじあめゆ。やまとほきとほきととがでまきたの「お義」て見
えりふくまく。下ひくまく。ひくまくあるの一派へもひくま
むすび。一かばたふかたつむすびや。ねんが。ここののアハモ「うれ
うれのうれ」と。ねだなけじ音もよこて。園十郎。女角丸。おじや
助六と。まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。
うめくら。まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。
ハ丁のまくら。まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。
まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。
まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。
まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。
まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。

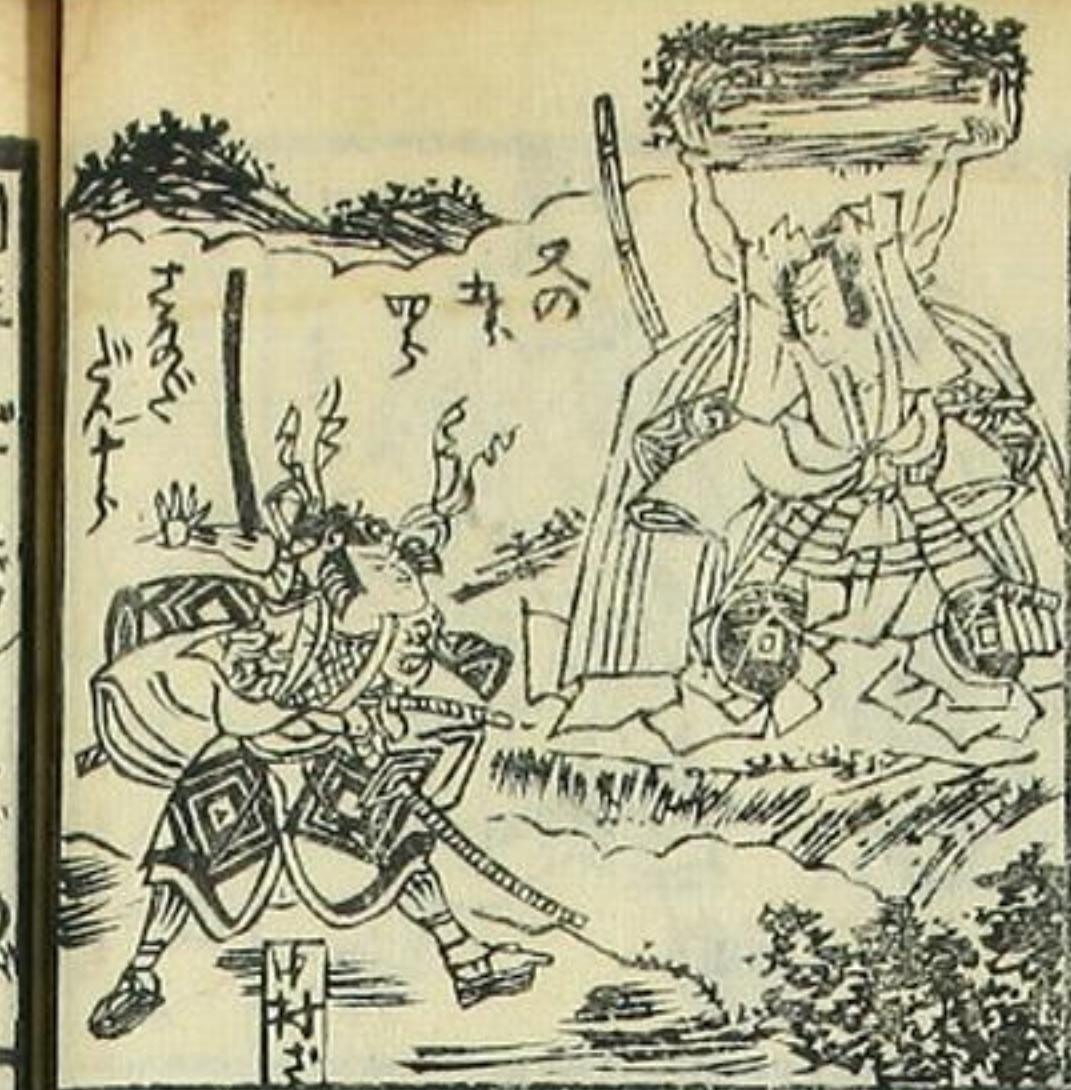


育音其盤忠信

同年正行定叙

中村社 郡守薦体木 佐野源庄の家十席。のとをもとをもどす。
まよきじ時より七三席。その源義も山奉京四席。アラスさち
せん。春村中宿効をも。あがや林ちの風音ハ射左のまも
か事よ。川桑治席。赤皇のとこをひふ辰里スモモ。掌席
さの源左高也ども。船橋の神を奉た内と名をく西の宮
との。呂後やへ嘉例のえびと檜の夷小矢と膳ふとすもの。時
夷のいの里をかうつてきさせんと。

折多ひと三席とや。七福神の中の通うり。あらうのむ神
さ。あるを三びどの福神とらと振やうと。うそとまうとをもひ
つれ。百素良茶でくとひく。而まひのやたりの付もどります。
まきへかくと御とう。御のうえまつての叶。御の辛よみのやれ
め。ひきでするまつて。こまゆで御のとふもひ。めでてとひて。
喰ふがどとひひが。入取やへかくとて。御をアラバドヒラテ。

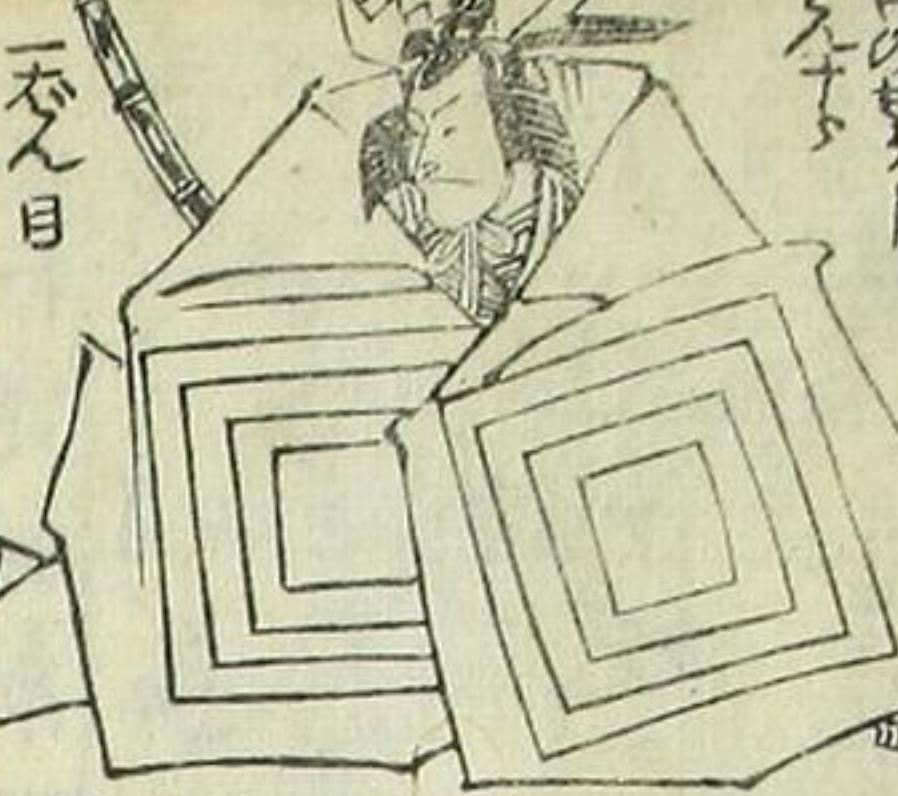


享保十年
己酉吉日
伊豆日記

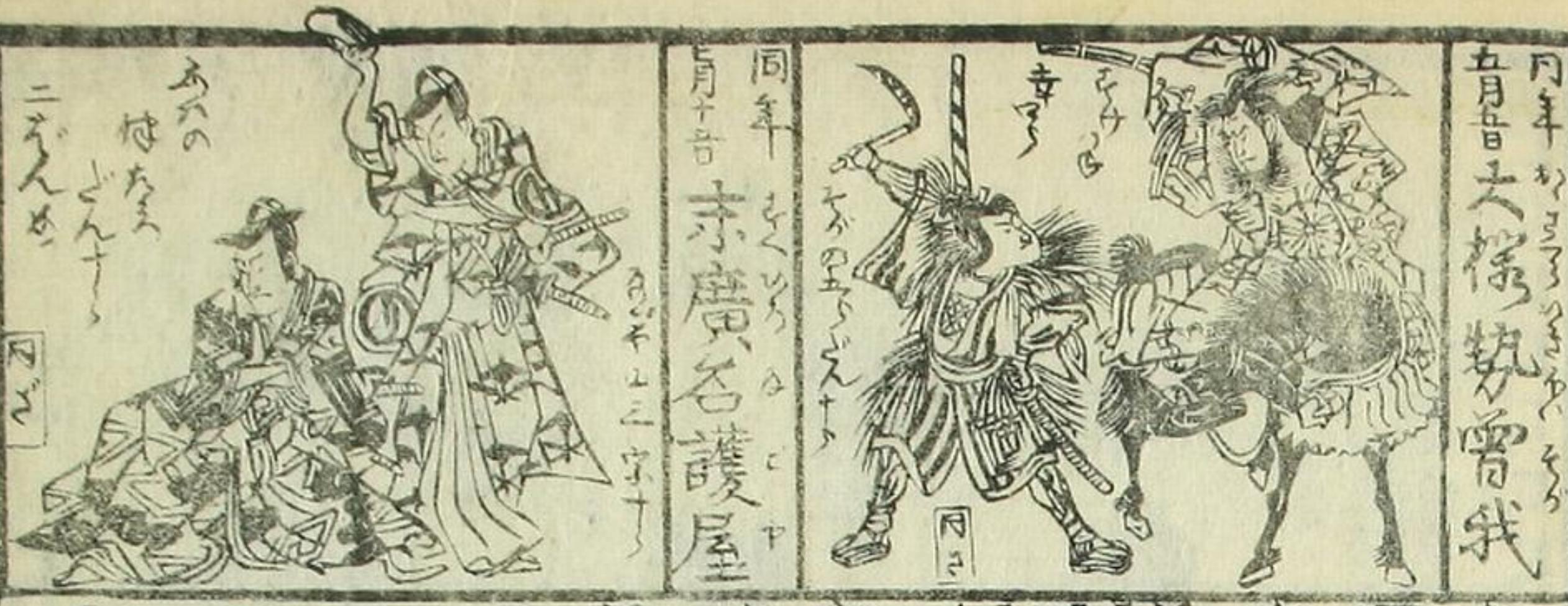
卷之三

是より足ハ
まきあめつてのちさとくのとくへかへとくのまがひ
うやまつてひづれをもひるあとくのまがひあす見んが
ねどもあへん▲はまくわせきはまはまくわせきをもよ
あくまくまよとハま、まくわせきをもよわくもく合モテ
ほじとぬけあまし カミ〇やんやくまくわせき
アシナリカレ助ちたんももどりむくわがまをち巻じやへ
△けたうちさんどくくう▲らのむちやうとくとくとく
けのむらのむくわくとゆひのまんこもやくとくとく
君わく 左
ふせぐわくまごくわく 通^{ハシ}曾我 助ち大萬うか。三月とうか月
あがめ近無い大入。七月十八日より四蟲用。まくねげざく海老を
翠生村とぞう。が名京清。仁田四郎ふしふされて。簾食ふて牢^{スナヤ}で
の不大萬うか。十月十一日まで大万のま。凡サスケ年の方の大萬
その上正月より十月まで。狂言一ツも仕舞。是布川海えのまの

同年 **小栗長生殿**



同年 **宇保十五年正月二日門松四天王**



同年 **育音大権教曾我**



同年 **赤廣名護屋**

月年 **育音大権教曾我**
同年 **赤廣名護屋**
同年 **二十六年正月二日門松四天王**

よつて官ふのや。政通す。大福帳をひきあらまんとす。西
園十郎降啄八郎の主ぐく。せちゆく取酒老翁の姓の通す
大あり。大祐呂孫權三郎たる。呂布園十郎。園羽海老翁。
義子とて大评判元文五年春市村社(豊年水代引)より
傳。伏見梅院軒とす。伏見いまと左近翁の主く。義士傳の主。
而も解り色ども评判す。不全。中村社姫勝院を
家十郎。近松門左つと名をうえ。夏秋日の出のみへ。车名系
清めて対重めや。萬帽子。素袍。千もの足。見臺。車をあせ。
曾我物語の文をと手本も。車をうくるせう。考究中評を
く。大入大出。

曾我物語りけ合

市川因 稲

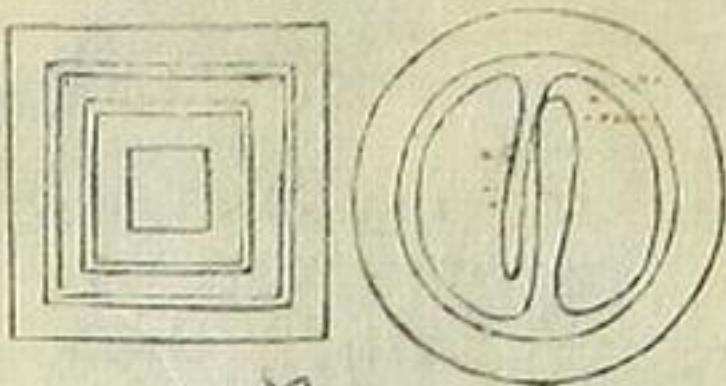
あらわす。其の豊年の田をうがそ。花畠の屋代の猪へこら
ども民す。身をうちのよがま。坂東河津とほどあつて盛りだ

そのあくすみ完とあけ。さうがら。味噌を入れて。醤油とろみて
あくすみれば。豆がまぐらのじめで。人かよめて買ひるとひとと
あてのひとい。豆すのめくらひとひと。錢を出で置くのと。

豆す。あの方のためと。とうもすつてやス

猪もどり。居る所。けらの湯を構をつ畜へ。面おも奈の女房
と仲へて。裏庭席三人えられたむしと大评判をもす。河原湯
庄_{入船太平記} 脱嫁又席ふ併三席。片桐孙七富達又市川室主

うへ廻み三床。勘定又席。妻麻糸寺ゆく役四者半席。こうどこの内
侍半席。通す。通セ女ぞう向と坂東を半席。市村社_{瑞樹太平記}
兼好法師酒老翁。長勝うげをまつまつ席。大屋宮松本を四席。
うげや女ぞう向と門を席。こうどこの内と櫛中奇川捕
正成室をも。捕西又市村富翁。大東を七坂東又を席。赤く
ぬつと坊門のまつせう中能。三浦をつみて。かとへぢづの松島處と
り私。じぶの天官と隣故國々などけす。せーんせうよ



喜虫

追松門ちづ 元祖 沢村家十良



中村座

同年

賀智顔馳十二段

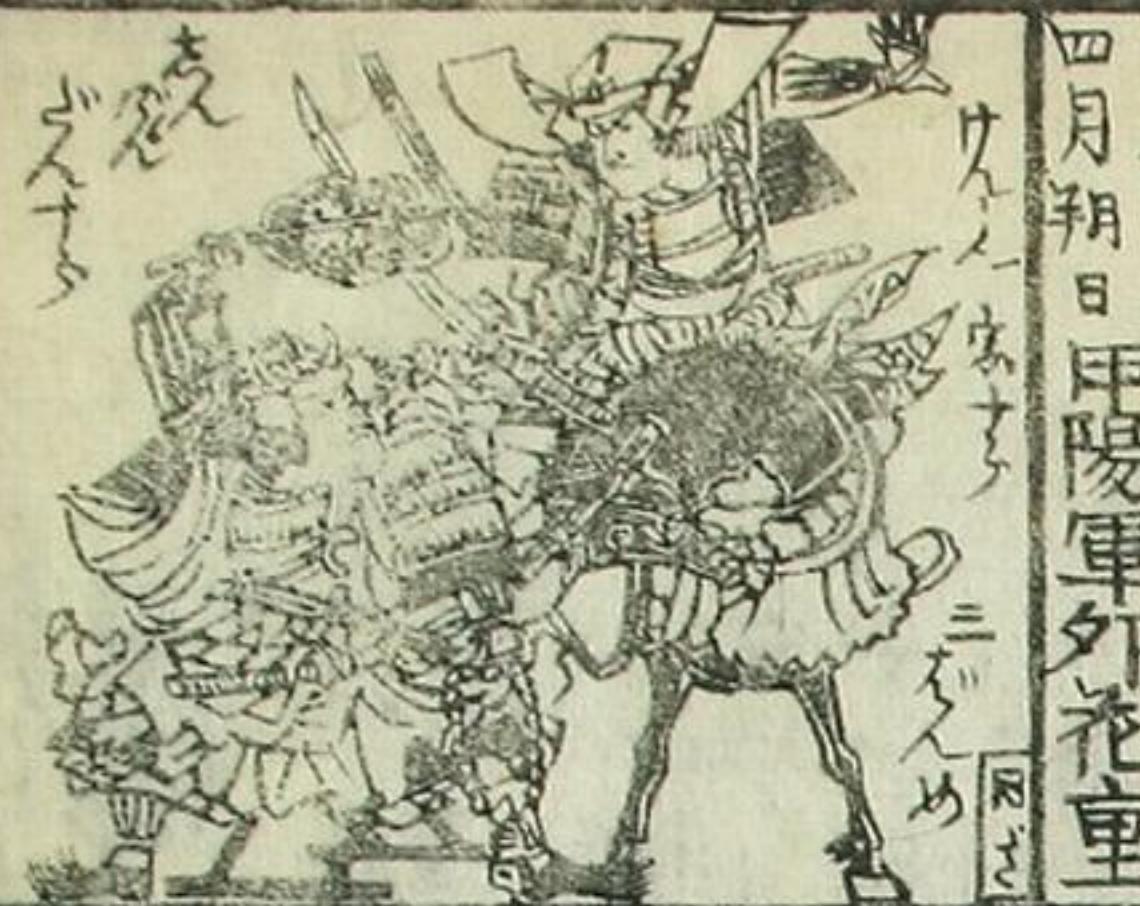
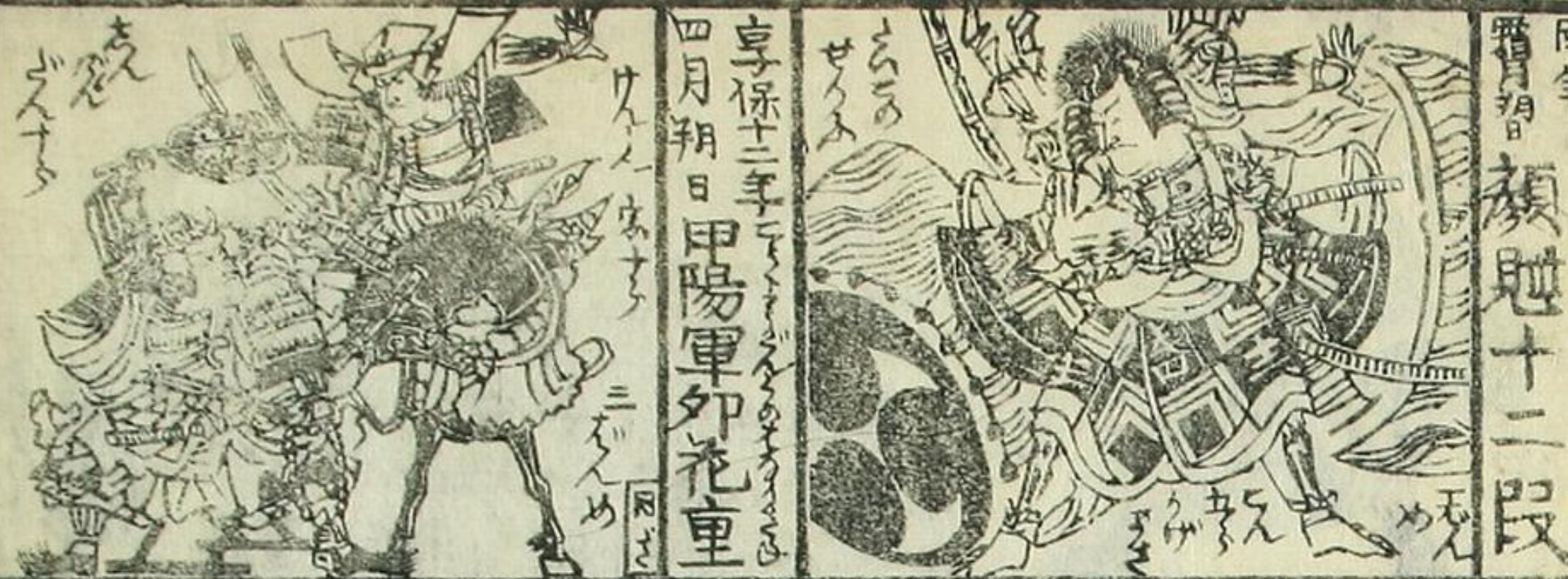
萬物語合せうぬ

市川

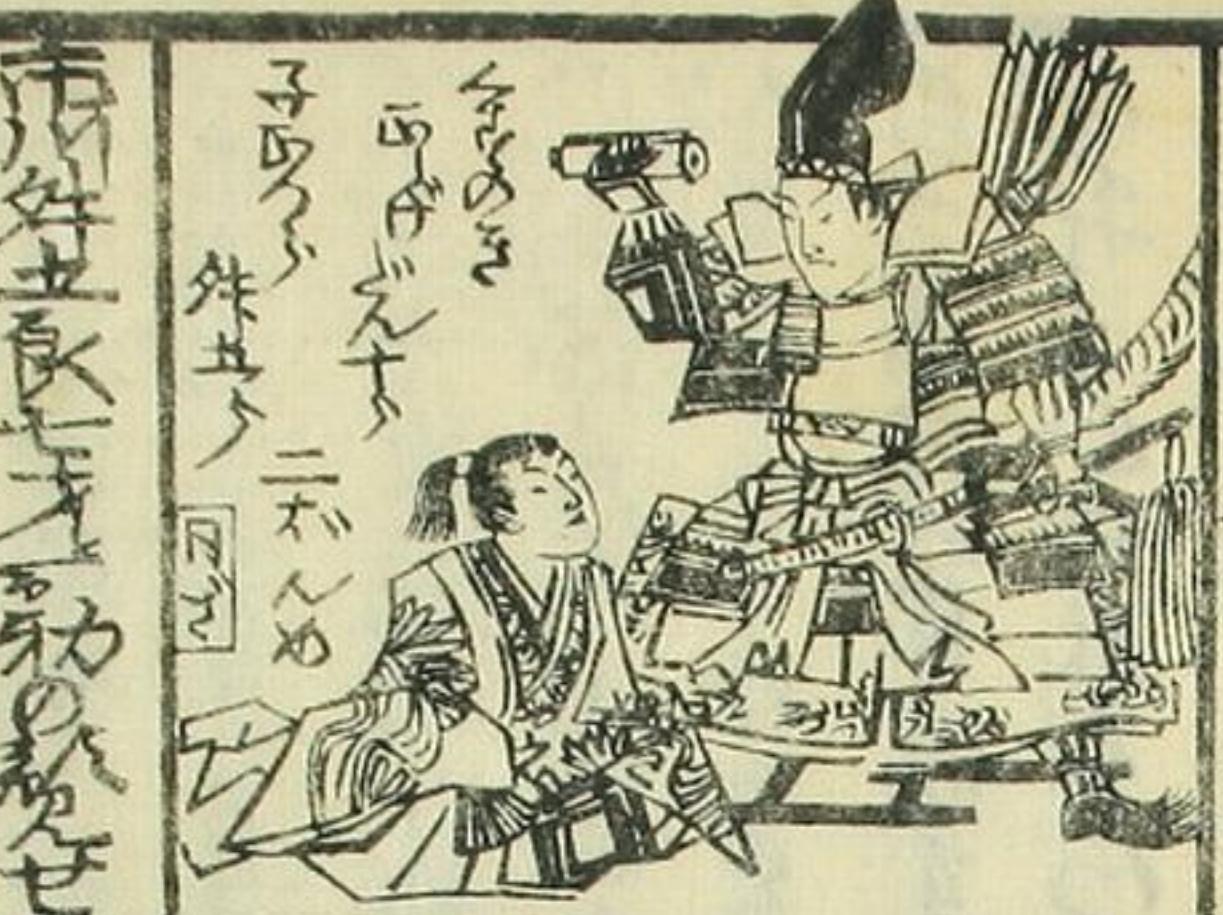
團扇

月の出の
火薺

元祖

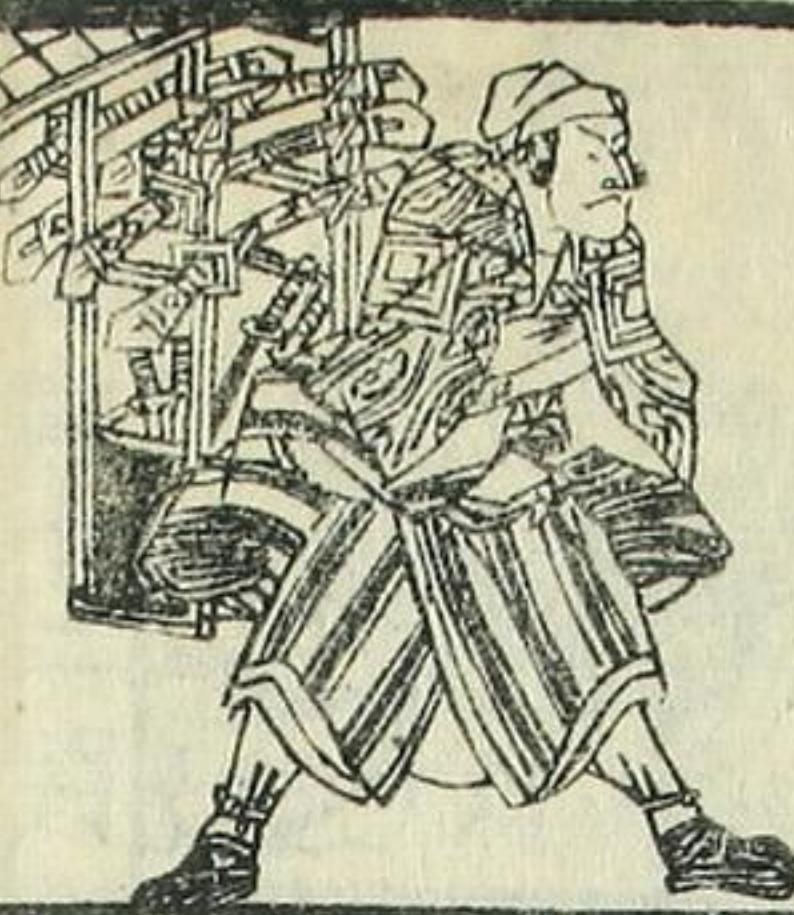


義もたけなぐ。子養と嘗我と剣とも。えひ一家のそとを争。るる義
ありのまのまのゆき。かくに妻をねがふ。奉へ一葉箱王が切く称
そがの一むじ。づきせよと二葉よう匂ひ梅が誰が家ぞ。りやうの
内よりつまみ。お彼へやど。がゑかの本推の本を。こゝとあらめて
いをせす。うちとをそと。二面。うそて相の不芽が。べりや三のどう料ふ。
ほどかと経へやううゆ。十八年の暮秋。そがのをそぞ老松のまへ
みたひけるまびとを。暮を切てまひふと。こせれらへ簪め。こをだく
ひよへやの先。あいがさぶんとこえ。くびがさうりのと風笑あ
あう歎らん幕や。すまへるへ福寿軒。まくわらの往來ふも。
卒魂面房と打つ見て。肩で風見る風車御用のねと鼻よつけ。
海を一とぞをざれど。ニテリがが死めらの木の。ぎりらへばよと
ころた。げひらど。う夏至の。八月下旬ふれ軒の。はねの。お竹と
名の。洋列と。とくわあ。まかづりの。まびの。富山。まげた
どみのひつと。そあへるの。まのうや。湯のまく。ねよ。まく



享保十二年秋八月
未霜月 八棟太平記

1



音音本復佐木鑑

卷之三

松子を乞ひの黒づちをつゞきある里へ桂子蠅のひとと食せ。秋若も时若も出
家がすとまゝら鳴でてざと彼也。そがわ諸の跡へ。二ノ月大詰と三ノ月
下旬みづゑを。門左うがれめく。山壁よひてがまを。全鄰旅を上す。すぐに序文の
あす紙。二人が子供の身のまくともとづめ。ま長をまうのむひの年玉も。下
ちむく。夕ふ余りぬへが。そのまづのまづのまづのまづのまづのまづのまづ
あづ。あづんともあづや。太名小名同音よ修整ひもると。二ノ切をそろく。反人か。よき
あづく。あづ。あづとも姉妹とも。ほよこまくとも。まくともあづ。まくとも
あづく。あづ。まくとも。まくとも。まくとも。まくとも。まくとも。まくとも。

同元文上甲年二月十日育より市村社姿觀隅田川

姿觀隅田川

あらば
栗林老翁。吉田

のゆゑ。室戸山田二席。坂東左近。舞草三席。織田又八。園十九席。
人買志。あらわの若狭の。二席をも。陽安。あらは富次門をも。野がまの。え女玉次。戈治。酒。
めの。の源。又坂東。又左近。さく下ひが城中。奇川。清玄室をも。一や。海老參
面打。がせ赤ちきの。役。面打。と。よう。達。と。き。磐石。名。その。か。しき。よの。の。く。も。あ。う。を
受け。大御前。太白。り。り。り。四。六。月。市川。園。舞。終。戒名。承。淨誓。ト。名。を。残。ス。元。月。

國子が江戸本挽町の産み。又き鷹といふ人の子。幼名ねを市とひよ。坂東又左衛門
子。父は船着坂東田助まさと。坂東は市川と改め。坂東又左衛門とすと。市川國三
川次市川と改め。國三は墨羽のあらわ。國三が田助よりうめひをひきとす。市川國三
市川と改め。國三と。今耳國三が死後も育てせり。中村吉まおひと二代目。市川國三
吉と改名。その弟。譯判記位。上上也。同霜月大名度也。高麗門市川。又坂
吉をもつて居れど。海老糸。國子市川。中村吉まおひ。家十郎。氣治市川。市村吉
かく。中村吉額又世。官桂太平記。國十郎吉まおひ。富次辰十郎。市川衣服を
うぬぬ。そののと市川。ものびうきせんとうけい。うら城の市川の神。氣治海老糸。則
ゆのねみ市川。うるう。あらう。お眼ひとえ。まつり。の。おもひ。おもひ。市川家十郎。又吉
彦。ちよ市川家。彦。妹松の尾辰國之氣。めあうり。みせ大名。おなじよ。よし。よ
市川七三市川。官女。うきのまく。風音ハ。ナモ。成よ。坂東。市川。市川
國三。火。六。七。二。市川。海老糸。そる氏の恩。とえ。とく。集内。そ。材上。市川
と。蘇。ゆ。め。人。よ。子。妹。と。あり。そ。大。う。れ。そ。と。并。と。一。と。べ。ア。ヒ。不。大。解。おん。
太。諸。青。面。荒。神。と。あ。う。と。引。田。あ。う。と。み。家。と。和。が。さ。せ。と。三位。の。局。次。特。

源治布のかへらとつみひづまびるふをきす。何も大へつ大へり。あ行け
仲秋ふ室えう。不被傳たまは東彦布。仁木綿はね本を西布。赤松武者も助よ
津井役之布。いづものむふは海中房川。久岡は三浦をも。けいせいかつて海川源治布。
波邊民教服東又ち布。さどや山ニ次村享子布。も圓ひあとあらんの益のう
くらがつてたがひたれうよ妨げらる木評判す。源治布うらぬかでほんとのまの
火ゆまだ。もあづ体へむひとあそば。石もももうちら火みる。移やの益とまほづきう
もあふ大奥り。當社えんせ河東鷹狩付同方年酉春中村住。菜荒暗子。惠七
吉原。京清園宇布。大絹平家蟹太牛糸。同年差元方佐の川市松下山。吉原
うす死差元方と評判す。三四年号改。寛保元周年。大坂へ少しるを残りねがん。
海老糸。圍十布。不動。愛染。大車。ばせう海老糸。家主中きくつとまどりす
ら。夜行よし。上方表の相手不案内のとおじびりうへ船着してゆす。訥子もあう
おうふ柏達大死りのとおじぞ。どうもづ。放屁をうづべ。柏達

ぎと出で顔よ紅紫とよきよけ。トりひられ。訥子

あまうきくふ絶別もせど。トもひらうとよとよ。島守乃

は食ひ即妙きくも面向。霜月大坂う大谷廣治。中村新太郎。佐の川万桑。
中山丸五布。鶴川糸。市山侍八布。松原。高平治下山。板市川海老糸。評判
十布。他的支度キテ。十月中旬江戸坐て。东海道へ旅く。旅券よりして役下山
まうすりみえ馬籠。川くみのもの價五うす。急角それば口論ゆめなびとあれ
ハ。何里役者と見えざるやう。おとづらふか。世人も小弟を途中こよどむ。先と
通中筋のものあり。度海老糸坐て。又何ぞよむて旅行せんと。往來よ
因を附居する。よろしくて荷物されふ。市川海老糸と書下。馬士警のうを取人
のふねせ。酒みやせ。下る處。のうと二人太坂。馬士警のう役者の座一
さがじをすうと申込とおひの外。矯鬱の振姿。あん令羽扇。佐治院長め
のうえ。安人の差簾。あとと云ふことをあらうと。翌日おまえ役者の方へ
経冊えをうと書いて送り。一

難波津

年子

柏達

叔寛保元年酉。毛背駄。大坂。板市川海老糸。訥子世

萬國太平記

細ちゆく

轟。時義。外郎賣のせうよ大奥。極月十日。うの。の轟。八的勢曾我

十番

呴祚不効北山移

新井洋子の市川海老

010190605537

